

2024年度 社会福祉法人 めやす箱 地域生活部門
事業報告

1. 地域生活部門各事業について

- ・倉敷市生活困窮者自立相談支援事業
- ・倉敷市生活困窮者家計改善支援事業
- ・倉敷市アウトリーチ等の充実による自立相談支援機能強化事業

2. 地域生活部門目標における具体的な取り組み

- ①法人理念及び基本方針を基に、2023年度部門目標を下記事項に定める。
- 生活困窮者・被災者の主訴に対し専門的観点から適切な支援を行う
 - 関係機関と協働した生活困窮者の早期発見・早期支援の実践
 - 生活困窮者の意思を尊重し、寄り添い・伴走型の支援を行う
- ・相談支援において積極的な支援提案（訪問支援も含め）を行い必要な支援に繋ぐ事や、ワンストップの相談支援として相談者の抱える複合的な課題に対し、自立相談支援や必要な関係機関への繋ぎ等丁寧な支援に取り組んだ。
 - ・2024年度の新規相談件数が、4110件となっており倉敷市との仕様書で定めている年間達成目標である1542件/年を大幅に上回る結果となった。日々の、相談支援における相談員の対応による苦情にならないように留意する事を意識し、支援に対する苦情件数は0件であった。
 - ・個別支援計画書作成を積極的に行い、生活再建が行えるまでの期間継続的且つ切れ目のない寄り添い・伴走型の支援を行い相談者個々の目標達成を目標に支援に取り組んだ。支援の過程において、相談者のアセスメントを専門的な観点を含め丁寧に行い、課題を抽出し連携できる関係機関とは積極的に連携を行った。
 - ・令和6年度支援計画策定件数2658件となっており、倉敷市との仕様書で定めている年間支援計画策定件数770件/年を大きく上回る結果となった。
 - ・複合的な課題を抱えているケースでは、課題に応じて関わる機関が多数存在する為、センターが中心となり関係機関への情報共有や支援の方向性等を共有しながら、支援が途切れる事のないよう、関係機関が継続的に支援に関われる状況を構築する事を意識して取り組んでいる。
 - ・各分野（定例、就労、就労準備、ひきこもり）支援調整会議を実施し会議毎に参加機関が異なっており、困難ケースの情報共有や、支援の方向性、関係機関との連携した支援に努めた。また、他機関の会議や研修の参加、関係機関との同行支援など積極的に行い、円滑な連携が行えるよう努め、各機関との連携、支援機関同士の顔の見える関係作り、関係機関が互いに支援内容を理解する事で円滑でスピーディーな支援連携が行う事ができた。

- ・引きこもり支援では主にアウトリーチ支援を中心に訪問支援を実施、また対象者本人だけでなく家族に向けての相談支援を行っている。また、医療機関・保健機関・地域関係機関等と連携した支援の実施等、様々な視点から支援アプローチを行い当事者やその家族へ継続的な支援に取り組んだ。

3. 地域生活部門事業展開について

- ・生活困窮者個々のニーズに対する早期支援・早期解決、自立に向けた積極的な支援を行ない、行政機関・医療分野・民生、児童委員・福祉分野などの関係機関等との円滑な連携できるよう取り組んでいく。
- ・関係機関との連携において、地域連携・地域協働のネットワークを作り、生活困窮者の社会自立に向けての支援検討・連携支援の強化・地域の居場所支援者との繋がりを作っていく。生活困窮者が社会や地域で孤立する事がなく、自己有用感を持ち生活できるよう支援に取り組んでいく。

2024 年度 倉敷市生活困窮者自立相談支援事業
報告書（案）

1. 事業概要

(事業の名称) 倉敷市生活自立相談支援センター

(実施場所) 岡山県倉敷市阿知 1 丁目 7 番 2-804-2 号くらしきシティープラザ西ビル 8 階

(事業責任者) 池田 朋宏

(資格) 社会福祉士・精神保健福祉士・ファイナンシャルプランナー3 級

(職員配置図) (2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日)

	センター長 主任相談員	相談員	相談員件家計相 談支援員	就労支援員	合計
常勤職員	0.9	4	0.4	2	8.3
非常勤職員				1	

2. 事業実績

令和 6 年度目標値	令和 6 年度実績値	達成・未達成
新規相談件数	1,542 件	4110 件 達成
支援計画策定件数	770 件	2658 件 達成
就労支援対象者件数	462 件	1106 件 達成
就労、増収件数	346 件	1648 件 達成 一般就労者：437 名 増収者：1211 名

3. 事業の具体的内容について

①ワンストップの相談支援の実践

- ・相談支援において支援同意に向け積極的な支援提案（訪問支援も含め）を行い、必要な支援に積極的に繋ぐ事を行った。ワンストップの相談支援の実践として相談者の抱える複合的な課題に対して、自立相談支援は基より、必要な関係機関への繋ぎを含め丁寧な支援の実践を行った。

2024 年度の新規相談件数が、4,110 件となり目標を大幅に上回る相談対応を行う事ができた。日々の、相談支援においての相談員の対応による苦情にならないように留意する事を意識し、支援に対する苦情件数は 0 件であった。

- ・支援同意を得て、個別支援計画書作成を積極的に行い、生活再建が行えるまでの期間継続的且つ切れ目のない寄り添い・伴走型の支援を行い相談者個々の目標達成を目標に支援に取り組んだ。支援過程において、相談者のアセスメントを専門的な観点で実施、相談者が抱える課題を抽出し、関係機関と連携し積極的な支援を行った。関係機関とは、随時情報共有（本人の同意を得ている場合）を行い連携が円滑に行えるよう、自立支援機関で連

絡調整を行った。令和6年度支援計画策定件数2,658件となり、目標値の年間支援計画策定件数770件を大きく上回りより多くの支援に取り組む事ができている。

- ・センター独自支援の一つである、食糧支援も継続的实施運用しており、依然食糧支援のニーズも高く、支援の繋がるきっかけにもなっている。食糧支援によって、飢えを解消できた相談者も多く、より一層継続的な支援の必要を感じている。食糧支援利用者が、年間人となっている。食糧の確保が課題ではあるが、地域からの寄付や企業と連携する事で賄っている他、当法人の社会貢献事業の取り組みで年2回実施しているフードドライブ事業においても、継続的な食糧確保の場になっている。

②関係機関との連携強化を行い、継続的支援の実践

- ・複合的な課題を抱えているケースでは、課題に応じて関わる機関が多数存在する為、センターが中心となり関係機関への情報共有や支援の方向性等を共有しながら、支援が途切れる事のないよう、支援マネジメントを行い、関係機関が継続的に支援に関われる状況を構築する事を意識して取り組んでいる。
- ・各分野（定例、就労、就労準備、ひきこもり）支援調整会議を実施し会議毎に参加機関が異なっており、困難ケースの情報共有や、支援の方向性、関係機関との連携した支援に努めた。また、他機関の会議や研修の参加、関係機関との同行支援など積極的にを行い、円滑な連携が行えるよう努め、各機関との連携、支援機関同士の顔の見える関係作り、関係機関が互いに支援内容を理解する事で円滑でスピーディーな支援連携が行う事ができた。

③一般就労開始者・就労増収者の更なる増加

- ・ハローワークや民間企業と積極的に連携を行い、就労者や収入増収者を増やし生活再建が図れるよう就労支援を行った。令和6年度就労者437人・増収者1,211人
生活保護受給者等就労自立促進事業では、毎月ハローワーク担当者と支援調整会議を実施し、支援対象者について情報提供を行い支援の方向性について共有している。連携体制が確立している為、相談者に対してより手厚い支援提供が行えている。
- ・無料職業紹介事業での支援を積極的に展開している。無料職業紹介事業における支援の独自性として、相談者の特性に応じた求人紹介、求職者の就労支援（ジョブサポート支援）、面接等に必要な支援を行い、相談者の状態や状況に応じた就労支援を実施している。職場定着支援では、就職先の企業と連携し職場訪問を行ったり定期的に企業担当者と連絡を取り合う等、就労定着に向けた支援に取り組んでいる。
- ・無料職業紹介事業求職者数は、1,295件となっており、利用者ニーズは依然高い傾向にある。利用登録者の特性として、ハローワークでの就職活動ではなかなか就職に結び付かない高齢者やフリーター・ニート、また引きこもりの状況下にある方々が多く、より本人の状況に応じた職場探し・職場定着等手厚い支援が必要な対象者が増加している。相談者の特性に応じた、就労スキルアセスメントを丁寧に行い、相談者の強み弱みを把握し、企業見学や企業開拓を実施し相談者と企業とのマッチングを行い、就職に結びつける取り組みを実施。就労セミナーを開き就労に必要なスキルの習得に向けた支援や、企業人材担当者

を講師に招き、必要とされる人材像について話をしてもらするなど、個々の状態・状況に応じた支援を行っている。

④任意事業との連携

- ・くらしき就労準備支援センター（就労準備支援事業）・いえさぼ（小学生訪問型事業）・学習教室くらすぼ（学習支援事業）・一時生活支援事業リンクと連携し、相談者の状況に応じて円滑な連携に取り組んだ。くらしき就労準備支援センターとの連携については、自立支援センターでアセスメントを行い、就労の準備的支援が必要な相談者に対して、くらしき就労準備支援センターと連携した支援に取り組んだ。毎月支援調整会議を実施、新規利用者の情報共有や支援の方向性の検討、支援継続者のモニタリング等を行う事で、就労準備利用期間中から事業終了後の連携を密に支援を実施する事ができた。
- ・いえさぼ（小学生訪問型事業）・学習教室くらすぼ（学習支援事業）との連携について、利用開始前の初回利用アセスメントは、自立支援機関で実施し対象児のアセスメントや世帯全体の状況把握も行い、各機関と連携した支援を検討していった。事業実施中に関しても、各団体との情報共有は行い、生活支援を継続して行った。
- ・一時生活支援事業については、利用前のアセスメントから利用時の就労支援・家計支援・転居支援、利用後の自活生活安定のための継続支援等、一定期間継続した支援を実施。社会福祉法人リンクや福祉援護課、ハローワーク等と連携を行う為適宜支援調整会議を実施、支援の方向性・目標・到達地点などを確認しながら、支援に取り組む事ができた。具体的には、概ね3か月の利用期間の中で職の確保・住まいの必要な資金の確保・居住の確保を行う支援を実施。携帯電話などの確保、家族との連携など、多岐に渡っての支援が必要となる為、関係機関と連携したスピード感のある支援を実施している。

⑤一人親支援の対策の強化

- ・養育費の問題・就労問題・家計の問題等、貧困に陥る課題について、関係機関と連携し包括的且つ継続的に支援を実施した。養育費等の課題については、ウィズアップ倉敷や弁護士と連携し、手続等の補助的支援や裁判所への動向支援等を行い、生活支援では、児童扶養手当や一人親の貸付等の同行支援、ハローワークマザーズ部門と連携した、センターのフードバンクやデリシャスキッズクラブと連携した食糧支援を実施している。
- ・生理の貧困についても取り組んでおり、生理用品の寄付を受けて当センターで対象者に配布している。生理用品配布利用者は、283件となっており、生理の貧困に対する対策を継続的に行っている。その他にも関係機関との連携では、地域で活動する団体トワイライトホームや子ども食堂ミソラ♪（子ども食堂・子育て支援団体）と食料支援を通じて連携し、個別のケースでの連携を実施している。

⑥引きこもり等、配慮が必要とされる相談者の支援強化

- ・引きこもり等の相談に対して、訪問型支援・家族支援等、状況に応じた支援提案と共に、対象者との繋がりが持てるよう、積極的な支援を実施している。引きこもり支援では主に

アウトリーチ支援を中心に訪問支援を実施、また対象者本人だけではなく家族に向けての相談支援を行っている。また、医療機関・保健機関・地域関係機関等と連携した支援の実施等、様々な視点から支援アプローチを行い当事者やその家族へ継続的な支援に取り組んだ。毎月定期的に引きこもりの支援調整会議を実施し、生活自立相談支援センターに相談のあった引きこもり当事者やその家族に対する支援の方向性やアプローチ方法等、会議参加機関（岡山県引きこもりセンター・倉敷保健所・青少年育成センター）から、専門的視点での意見助言、情報提供を受け、当センターの支援に反映している。

- ・対象者と支援に繋がるまでの期間は、自宅へのアウトリーチや家族会への参加の促し、家族会への同行参加等の支援を行い、長期的支援を想定しながら継続的な支援を実施。支援対象者との繋がりができてからは、信頼関係の構築に尽力しその後就労準備支援や無料職業紹介事業を活用し、オーダーメイド型の支援に繋げる事ができている。
- ・引きこもり支援では、専門的な支援スキルが必要となる為、引きこもり研修会に積極的に参加している。また、研修の中で当センターの支援について周知する事で、具体的な連携方法も共有する事ができ、支援連携が円滑に行えた事例もある。その他にも、倉敷市自立支援協議会精神部会のメンバーとして、倉敷市の関係機関と連携し引きこもり支援を含めた関係機関との繋がり、社会資源の発見や新たな繋がりなど、生活自立相談支援センターの引きこもり支援の基盤を整える事に繋がっている。

5. 活動実績表・・・定例、就労、就労準備、ひきこもり対象者支援調整会議毎月実施

月	活動内容
4月	・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
5月	・倉敷地域自立支援協議会精神部会
6月	・SSW・福祉援護課・生活困窮支援関係事業者連携会議 ・令和6年度「児島地区要保護児童対策地域協議会」「児島地区子育て支援協議会」 ・令和6年度倉敷市相談対応スキルアップ研修会 ・こども・子育て等関係事業所団体グループヒヤリング ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
7月	・令和6年度倉敷市要保護児童対策協議会 ・令和6年度ひきこもり支援ステーション準備検討会
8月	・令和6年度第1回重層的支援体制整備事業研修会 ・令和6年度重層型支援隊整備事業における多機関協同事業説明会 ・令和6年度第2回倉敷地域自立支援協議会精神部会 ・若者の心の居場所を地域に ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
9月	・第16回倉敷権利擁護支援フォーラム

	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷市ピアサポート活動支援事業説明会 ・令和6年度倉敷地区要保護児童対策協議会 ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度重層型支援体制整備事業研修会 ・令和6年度ひきこもり専門研修「アウトリーチと重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチ」 ・厚生労働省生活困窮者自立支援制度「支援ツール活用セミナー」 ・生徒支援コーディネーター研修会「こどもの貧困解消のための福祉援護課で実践する生活困窮世帯への支援について」 ・生きるを支えるフォーラム2024 ・岡山の「にも包括」の未来を考えよう ・相談支援体制強化推進事業 相談支援従事者研修 ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度第1回シンポジウム「孤独・孤立対策のこれまでとこれからの連携・協働について考える」 ・岡山県ひきこもり地域支援センターの取り組み「家族支援で大切にしていること」 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・倉敷地域自立支援協議会精神部会「ひきこもり支援を考える専門分科会」 ・就労支援に関する手引き改訂に関する調査研究事業 ヒヤリング調査 ・生活困窮者自立支援制度担当者連絡会 ・ ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度生活困窮者自立支援制度におけるブロック別研修 ・令和6年度テーマ別研修「孤独・孤立の理解とアウトリーチ相談支援研修」 ・令和6年度研修型ペアレント・プログラム（支援者養成） ・生活困窮者自立支援関係機関研修会 ・玉島地区要保護児童対策協議会 代表者会議 ・居住支援に関わる多職種連携のための研修会 ・令和6年度第2回シンポジウム「らしさ」と孤独・孤立 ・生活困窮者自立支援制度人材養成研修県研修
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度テーマ別研修「若年層が抱える課題とその支援」 ・令和6年度研修型ペアレント・プログラム（支援者養成） ・倉敷地域自立支援協議会精神部会 ・困難を抱えた若者の社会参加について考える会

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児島地区要保護児童対策協議会・ 児島地区子育て支援協議会 ・ NPO 法人カラーひきこもりステーション事業見学 ・ 重層型支援体制整備事業（多機関協働事業）のための基礎研修 ・ 生活困窮者支援等のための地域づくり事業に関する評価会議 ・ 倉敷市におけるひきこもり状態にある方の居場所に必要な要素に関する調査報告会 ・ ひきこもり支援ステーション準備検討会 ・ 倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会 ・ 第 12 回倉敷かけはしの会
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 6 年度研修型ペアレント・プログラム（支援者養成） ・ 生活困窮者自立支援制度 支援員のための育ちのガイドブック

2024年度 倉敷市生活困窮者家計改善支援事業
報告書（案）

1. 事業概要

（事業の名称）倉敷市生活自立相談支援センター 家計改善支援事業
（実施場所）岡山県倉敷市阿知1丁目7番2-804-2号くらしきシティープラザ西ビル8階
（事業責任者）池田 朋宏
（事業担当者）榎 顕司
（資格）社会福祉士・精神保健福祉士・ファイナンシャルプランナー3級

・1週5日とし、週2日（火・木）を家計支援業務に従事した。

月	火	水	木	金
自立相談	家計改善	自立相談	家計改善	自立相談

（職員配置図）（2024年4月1日～2025年3月31日）

	家計改善支援員	合計
主任相談員兼務	0. 1人	0. 1人
相談支援員兼務	0. 4人	0. 4人

2. 事業実績について

2024年度目標値		2024年度実績値		評価
家計改善支援事業利用決定件数	48件/12ヶ月	家計改善支援事業利用決定件数	49件/12ヶ月	達成
支援計画（プラン）作成のうち自立に向けての改善が見られた者の件数	38件/12ヶ月	支援計画（プラン）作成のうち自立に向けての改善が見られた者の件数	50件/12ヶ月 上回って達成3件 達成47件	達成

3. 家計改善支援事業終結評価の内訳（2024年4月～2025年3月）

- ① 上回って達成 3件
- ② 達成 47件
- ③ ほぼ達成 0件
- ④ 一部達成 0件
- ⑤ 達成できなかった 0件

4. 事業目標達成の具体的取り組み

・家計収支の均衡がとれていない、家計管理に困難さを抱えている等、家計状況の悪化により、困窮状態に陥っている者や、最低限度の生活を維持することが出来なくなるおそれのある世帯に対し、家計改善支援事業を実施した。多重債務や過剰債務を抱え、返済が困難になっているケースや、家賃や水光熱費、携帯料金、学費、税金などの滞納によ

り生活が困難になっているケース等の家計改善支援に取り組んでいる。

- ・令家計改善支援事業の新規相談は 1343 件、家計改善支援事業の利用数も 49 件となっており、目標値 48 件を達成している。
- ・家計改善支援事業では、定期的な家計相談を行い、本人や世帯の相談時家計表、家計表キャッシュフロー表を作成して家計の見える化を図り、家計課題の可視化を行っている。困窮に陥った背景、要因を分析し、作成した家計改善計画書を基に課題解決に向けた具体的な支援内容や家計改善の道筋を示しながら、相談者の家計管理能力及び家計管理に対する意識の向上、困窮状態の改善、生活再建を目的とした支援に取り組んだ。
- ・債務相談については、倉敷消費生活センターと連携し、債務整理のアドバイスや弁護士、司法書士等の専門家へ繋ぎを行っている。専門家と連携して、具体的な債務整理の方法を検討し、家計改善に向けた支援を行っている。
- ・税金の滞納相談については、関係各所（納税課、国民健康保険課等）へ同行し、相談者と共に作成した家計表やキャッシュフロー表を用いて、滞納改善に向けた分納相談を行っている。定期的な家計相談を実施し、返済の状況確認や返済計画の見直しを行う等、伴走型の家計支援を実施している。
- ・相談者が主体となり、関係機関、専門家と連携し、返済計画を家計改善支援事業のプラン化することで、プラン内容に沿って返済することが出来ている。定期開催している家計改善支援事業支援調整会議では、家計改善支援事業の利用が必要な相談者の課題や支援の方向性等について確認を行い、支援継続者のモニタリングや支援終了の有無についても検討している。モニタリング検討者は、家計改善支援事業支援調整会議において終結評価の内容として、「家計改善支援終結目標と照らし合わせて家計再生が達成した件数が 50 件/12 ヶ月」となっており、家計改善支援の効果を実証できている。

5. 年間活動実績表

月	活動名
4 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
5 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
6 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
7 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
8 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
9 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
10 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
11 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
12 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
1 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
2 月	・家計改善支援事業 支援調整会議
3 月	・家計改善支援事業 支援調整会議

2024 度 倉敷市ひきこもりサポート事業におけるアウトリーチ等の充実による
自立相談支援機能強化事業 報告書（案）

1. 事業概要

（事業の名称） 倉敷市ひきこもりサポート事業におけるアウトリーチ等の充実による自立
相談支援機能強化事業

（実施場所） 岡山県倉敷市阿知 1 丁目 7 番 2-804-2 号くらしきシティープラザ西ビル 8 階

（担当者） 文箭 美里

（事業責任者） 池田 朋宏

（資格） 社会福祉士・社会福祉主事・ファイナンシャルプランナー 3 級

（職員配置図）（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）

	ひきこもりアウトリーチ支援員	合計
常勤職員	1 名	1 名

2. 事業実績について

令和 6 年度目標値		令和 6 年度実績値		評価
新規相談件数（本人以外も含む）	8 件	新規相談件数（本人以外も含む）	1 0 8 件	達成
ひきこもり状態にある方又はその家族との訪問による面談	4 件	ひきこもり状態にある方又はその家族との訪問による面談	2 7 件	達成

3. 具体的内容について

- ・引きこもり等の相談に対して、訪問型支援・家族支援等、状況に応じた支援提案と共に、対象者との繋がりが持てるよう、積極的な支援を実施している。引きこもり支援では主にアウトリーチ支援を中心に訪問支援を実施、また対象者本人だけではなく家族に向けての相談支援を行っている。また、医療機関・保健機関・地域関係機関等と連携した支援の実施等、様々な視点から支援アプローチを行い当事者やその家族へ継続的な支援に取り組んだ。毎月定期的に引きこもりの支援調整会議を実施し、生活自立相談支援センターに相談のあった引きこもり当事者やその家族に対する支援の方向性やアプローチ方法等、会議参加機関（岡山県引きこもりセンター・倉敷保健所・青少年育成センター）から、専門的視点での意見助言、情報提供を受け、当センターの支援に反映している。
- ・対象者と支援に繋がるまでの期間は、自宅へのアウトリーチや家族会への参加の促し、家族会への同行参加等の支援を行い、長期的支援を想定しながら継続的な支援を実施。支援対象者との繋がりができてからは、信頼関係の構築に尽力しその後就労準備支援や無料職業紹介事業を活用し、オーダーメイド型の支援に繋げる事ができている。

4. 事業目標（具体的取り組み）

①新規相談者の増加

- ・関係機関からの相談や、関係機関が相談者へセンターを情報提供し繋がるケースもある。センターがひきこもり等相談窓口であることを周知することが出来ている。

②アウトリーチ支援を通して関係機関との連携強化

- ・ひきこもり支援については、家族からの相談を受ける場合も多く、本人への支援介入についてはアウトリーチを行い、支援介入のタイミングを図っている。また、状況に応じて保健師やその他関係機関と連携を図り、役割を分担しながら支援に介入している。

③アウトリーチ支援員のスキルアップへの取り組み

- ・ひきこもり支援に関する研修やひきこもり支援を考える部会など研修や勉強会に積極的に参加し、専門的な知識取得やスキル向上に向け取り組みを行った。

5. 活動実績表

月	活動内容
4月	・ひきこもり対象者支援調整会議 ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
5月	・ひきこもり対象者支援調整会議 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会
6月	・ひきこもり対象者支援調整会議 ・精神部会におけるひきこもり支援を考える専門部会 ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
7月	・ひきこもり対象者支援調整会議 ・ひきこもり支援ステーション準備検討会
8月	・ひきこもり対象者支援調整会議 ・第2回倉敷地域自立支援協議会精神部会 ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
9月	・ひきこもり対象者支援調整会議 ・精神部会におけるひきこもり支援を考える専門部会 ・第16回倉敷権利擁護支援フォーラム ・倉敷市ピアサポート活動支援事業説明会 ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
10月	・ひきこもり対象者支援調整会議 ・重層型支援体制整備事業研修会 ・ひきこもり専門研修「アウトリーチと重層的な支援ネットワークを活用した多面的アプローチ」

	<ul style="list-style-type: none"> ・生きるを支えるフォーラム 2024 ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
11 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・第 1 回シンポジウム「孤独・孤立対策のこれまでとこれからの連携・協働について考える」 ・岡山県ひきこもり地域支援センターの取り組み「家族支援で大切にしていること」
12 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・倉敷地域自立支援協議会精神部会「ひきこもり支援を考える専門分科会」 ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
1 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・2024 度テーマ別研修「孤独・孤立の理解とアウトリーチ相談支援研修」 ・第 2 回シンポジウム「らしさ」と孤独・孤立
2 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議 ・2024 度テーマ別研修「若年層が抱える課題とその支援」 ・困難を抱えた若者の社会参加について考える会 ・NPO 法人カラーひきこもりステーション事業見学 ・倉敷市におけるひきこもり状態にある方の居場所に必要な要素に関する調査報告会 ・ひきこもりステーション準備検討会 ・倉敷市生活困窮者事業ネットワーク会
3 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひきこもり対象者支援調整会議